

発行所 日本キリスト教団 なか伝道所
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 305
Tel. (045) 671-1109
振替 00200 - 1 - 47369
E-Mail : naka@church.jp http://church.jp/naka/
発行者 渡辺英俊 (題字 松橋 順)

宣教方針

- ① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
- ② 地域の問題に関わる。
- ③ 諸教会に呼びかけてゆく。

集会 主日礼拝 日曜日 午前10時30分より

福島原発被災者と共に

神奈川県主催「リフレッシュ@かながわ」に参加して



宿泊先のホテル「ナビオス横浜」
鯉のぼりが福島の家族たちを応援しているようだった

なか伝道所有志

五月の連休を利用して、神奈川県主催の「ナビオス横浜」を会場に、福島県から一五家族六人の親子をお招きして、「リフレッシュ@かながわ」が開かれた。特に子どもたちにとっては、放射線の少ない環境で数日も過ごせることは、免疫力の回復に大きなプラスになるとのこと。神奈川県としてこのプログラムを実施したことが望まれる。

五月の連休中だったので、横浜市内が混んでいたが、この時期だからこそお父さんも休みを取れて家族揃って参加できた。連休のタイミングの企画で良かったと思う。参加した方々からいただいたアンケートにも、連休という大変な時期にこのプログラムを提供してくれたスタッフ、ボランティアの皆さんに感謝すると書かれている。ボランティアは四日の紅葉坂教会での食事と子ども当番で三一名、横須賀港の順番べ七〇名近い方がたにお世話になった。アンケートの中から……

〈小笠原公子〉

わないですが、良かった。〇(母子だけで自主避難した家族) 離れて住んでいるお父さんと一緒に楽しんだ。原発事故後、心から笑ったことはない。子どもを守るのには私しかない。交流会の設定ありがとう。このプログラムがキリスト教主催だとわかり、小さい頃教会学校に通っていたことを思い出した。

〇もし、次にもやるのなら、仮設住宅の人たちにも開催する知らせが届くようにしてほしい。

(この要望が出たのには、次のような事情がある。昨冬、福島と郡山で開かれた保養プログラム相談会に出席した。ここは全国の保養プログラム団体が集まり、参加したい家族を紹介する場である。そこで今回の神奈川県による、親子で参加できるプログラムの紹介した。連休のプログラムは多くなく、反響が大きかった。今回の参加者はこの相談会に出てくることのできた人たちが半分、インターネットでの申し込みが残り半分だった。仮設住宅にも募集が届くようにというのは、貴重な助言と思う。)

〈小笠原敦輔〉

私は受付全体を担当させていただいた。福島から参加されるご家族が最初にわたしたちボランティアと接するところなので、このプログラム内容に安心していただけるように対応しようと心がけた。私は会場のチェックインを受け持ち、次のオリエンテーションまでの流れを、まずご案内した。

受付はチェックイン↓横浜観光の資料配布↓会費徴収という流れで進んでいた。スムーズであったと思う。ボランティアの方々には申し訳なかったが、時間割にせずそれぞれの持ち場にずつといっていた。その結果として、どのご家族に対しても受け答えがしつかりでき、その内容にばらつきがなかったと思う。

ホテルのご厚意で二階宴会場前の広いスペースをお借りでき、その場で受付、オリエンテーションができたことは大変幸運だった。ご両親が受付されている間、お子さんが目の届く範囲で遊ぶ空間になったし、ボランティアと個別に相談するスペースが確保された。横浜観光を相談してくるご家族に親身な対応もされていた。受付が二階になったことから、一階ロビーでの案内をするボランティアの働きもあった。渋滞に巻き込まれて一家族の到着が遅れハラハラしたが、その家族も夜七時頃到着し、受付が済んでホッとしました。

参加されたご家族が、事前にわたしたちがお送りした観光資料も参考にして、緻密なスケジュールを組んでこられたのには驚いた。ふだん福島県で、被曝を気にしながら重苦しい生活をしている中で、お子さんをのびのびと遊ばせたいという気持ちで一杯だったと思う。このプログラムを連休中に設定したのも、お父さんが参加でき家族が揃ってリフレッシュできた点で大変良かったと思う。

ホテルと紅葉坂教会間の車の送り迎え

を担当するボランティアにも加わったが、乗り込んだご家族から車中で、今日一日楽しかったという話を聞くことができた。夕食後の参加者交流会では、三つのグループに分かれて話し合う時を持った。参加された方々は、生活をしながら子どもたちの外部被曝・内部被曝を可能な限り防ぎたいという共通の悩みを持っていた。地域ごとに自治体の対応が異なり、特に人口が多いところほど自治体の対応が悪く、問題が大ききようである。

今回のプログラムは短時間での準備とあったが、苦労した甲斐があった。連休中、人出は多くても色々なイベントがあった。参加者へツアークンダクターのように観光資料をお渡しできた。二人のボランティアが親身になって横浜観光の相談に乗れたのは良かった。

〈石倉夕子〉

今回は、実行委員会から教区の限られた人たちにしか呼びかけられなかったが、次回はもう少し参加の輪を広げたい。福島の方々は生野菜に対する恐怖感があることを考えれば、カレーの付け合わせをゆで野菜にすればよかったかもしれないという意見も出た。

被曝を避けるため、ふだん自由に行動させてもらえない小さい子どもたちは、出発の朝、なごり惜しそうにホテルのロビーを走り回っていた。

参加された家族の方がたからは、部屋か

ら見える夜景がきれい、最後の日は目一杯楽しんで夜遅く帰ってきたとの感想をいただいた。

〈渡辺幸子〉

私の夫と義母は福島出身で、親戚は今も福島に住んでいる。原発事故に心痛めていて何かしたいと思っていたので、今回のプログラムを手伝ってよかった。夕方四時ごろ紅葉坂教会へ行った時には台所でカレーが既にできていた。私は子どもの世話の手伝いをするようになった。平良牧師が中心となって準備した。最初にあいさつをして相手の名前をいくつ書けるかゲームをした。おじいさんのできることという紙芝居をした後、好きなコーナー（紙飛行機、トランプ、折り紙）へ行って自由に遊ぶ時間を持った。初めは走り回っていた子どもたちもいたが、後半でやつと落ち着いていた。子どもたちの様子の全体を見ることができ人が必要と感じた。

初日の受付では、一階ロビーで一般客とリフレッシュの参加者を見極めて二階まで案内する役を担当した。二階の吹き抜けの手すりの間から子どもがすっぽ抜けるのではないかとこわかった。

〈武井昭代〉

横須賀の軍港を見たいという家族がいるので、ボランティアが知恵を出し合い、連携して対応できた。ボランティアのネットワークはすごいと思った。

（そのほか、渡辺常子さん、渡辺英俊さん、山口のぶえさん、沓澤則子さん、渡辺恵子さんも参加した。）

全体の話し合いから

・事故後、生野菜を食べない習慣の家族がいた。こちらで生野菜を出すときには生産地等の説明をすれば安心していただけたと思う。

・子どもの甲状腺にしこりがある家族がいた。福島は一回検査をすれば五年に一度で良いと言っている。また、他の医療機関に対しセカンドオピニオンを受け付けないように通達している。良心的な小児科医は二〜三か月に一回は検診が必要と言っており、問題だ。

・今回広報されるまで時間がなかったせいかもしいないが、広く教区にボランティアの輪が広がりきれなかった。教職の参加も少なかった。

・ボランティアの中に保育士や看護師がいることで、参加者からの信頼性が増した。

・福島の問題は、原発事故がいかに深刻であるか表している。一年二年で片付く問題ではない。この神奈川教区のプログラムは、少しでも福島の子どもたちがリフレッシュし、免疫力を高めてもらうために、そして福島の方々と直接つながるために、長い期間を見据えた継続性が必要だと思う。

（まとめ 小笠原敦輔）

使信

力と支配

渡辺英後

カインが弟アベルに言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。主はカインに言われた。

「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」
カインは答えた。
「知りません。わたしは弟の番人でしょうか。」
(創世記四章八〜九節)

強い者と弱い者

自然の世界にも人間の世界にも、強い者と弱い者がいて一様ではない……。これによって不公平じゃないでしょうか？
もし、強い者が生き残り、弱い者が淘汰されるといふ、いわゆる「優勝劣敗」が自然の法則だったら、違いがあることは不公平になるでしょうね。

ところが自然界はかならずしもそうなっていない……。動物の世界を見ても、強いから残るとは限らない……。最強の大きな動物が、その大きさのゆえに絶滅したり、羽の色やダンスの仕方や巣の作り方で子孫を残せたり……。何が「優」で、何が「劣」かなんて、だれに

も言えないんですね。

優勝劣敗が自然の理で、強い者が生き残ればいいんだ……という考え方は、近代の資本主義を支えてきた思想で、その極限が、すべてを市場原理に任せ

てしまおうという、新自由主義で……。その結末が原発災害や、級友を自殺に追い込むイジメや、人混みに車で突っ込む暴走人間の出現で……。社会も人間もメタメタに傷つけられてしまっている

んです。そこには、社会の組み立て方について、根本的な思い違いがある

と思うんですよ。「優」というのはやさしさのことですね。優しさを欠くことを「劣」というんじゃないでしょうか。「優勝劣敗」というのはそう読まなくちゃいけないと思うんですね。

番人？

創世記は、人類の歴史の最初に起こった悲劇が、きょうだい殺しだった、と書いているんですけど。これは、まさに強い者が弱い者の命を奪う事件だったんですね。

この物語の中で、アベルは羊を飼う者、カインは土を耕す者だった(四章二節)と言われていて……。この物語が作られた時代には、農耕民が沃地に定住して、王や大地主など強い者たちが農民から搾取して富み栄えていたんですね。他方、牧羊民はムラの外に追いやられ、荒地地を歩きながら羊を飼

エー・エー

(『桃太郎』を読みながら)

父 「きびだんごを一つ食べれば十人力、二つ食べれば百人力、

三つ食べれば千人力です。……」

花 「はなも、きびだんごを食べたら、センニンギリだね。」

(千人力でなく、千人斬りになってしまうのかと心配させる)

幸前 花 六歳)

風景

Y M C Aの学生寮に入り聖書に触れるようになって、はじめてじっくりきたのが「善いサマリヤ人のたとえ」でした。いまでもいろいろなことを考えるヒントを与えてくれる、私にとっては思い入れのある箇所です。私は、安易なレッテル貼りを戒めた話と解釈しています。

私は、埼玉県にある特殊金属製品を製造する会社に勤めるサラリーマンです。サラリーマンって、レッテルに埋め尽くされた空間のように感じます。どんな会社のどの部署に属しているのか？ 役職は？ 出身校は？ 入社年次は？ 話題はそんなことばかり。つくづく聖書から離れた世界です。だってイエスは、「〇〇部長と同期なんですか？ 実は、彼とは高校が同じで」なんて言わないもの。

困ったことに、私はこういう「レッテル貼り」が大好きなんです。理由はわかりやすいから。小さい頃から早くわかるのがいいことだと調教されてきたんです。でも、わかりやすさって胡散臭いとも思うようになってきました。わかりやすさを売りにする解説書の類は例外なくペラペラですよ。そもそも、聖書ほどわかりにくい書物はない。イエスの生き方も、とてもひと言で要約できるものではありません。

わかったと思いついて、これを止めてしまわないように。これからもそうした姿勢で日々生活し、なか伝のみなさんと聖書を読んでいきたいです。そして、そうすることで、少しはイエスの生きた道と世の中のことが、わかるようになるのではないかと信じています。(幸前 一元)

う貧しい人たちで、農耕民の王たちの強大な武力で痛めつけられていた……。そういう社会状況で、強い立場の農耕民の権力者が、弱い立場の牧羊民を痛めつける場面をバックにして、カイン（農耕民）がアベル（牧羊民）を殺した……という物語が書かれるんですね。どちらの民族も「きょうだい」であるはずだった……。だから物語は二人の主人公が「兄弟」だったという設定にしている……。強い者が弱い者を痛めつけ殺すと言いたいんですね。

この批判が印象深く表現されているのは、アベルを殺した後のカインと神とのやりとりですね。ここで神は、「あなたのきょうだいはどこにいるのか」と、厳しい糾弾の言葉を向けているんですね。私が、愛する相手として与えたあなたにきょうだいに對して、あなたは何をされたのか……。これは歴史上繰り返されたのか……。強い者、奪う者たちに向けられてきた問いかけだと思っんですよ。これに對して、カインはこう答えていますね。

「知りません。わたしはきょうだいの番人でしょうか。」

ここで使われている「番人」という言葉は、「守る、見守る」（シャーマル）から来ていますね。神がアダムをエデンに住まにも違反する行為と抗議。異警も非を認めて謝罪。外国人相手ならいつでも職務質問してもいいという空気があるのではないか、責任をもって再発防止に取り組んでほしいと要望。

△六月二三〜二四両日、新潟で移住労働者と連帯する全国ワークショップ。全国から一五〇人が参加。施行直前の改定入管法の問題を中心に、一〇の分科会で討論。

私自身は、「包括的移民政策」分科会の発題を担当。移民を受け入れていく国の政策と、担当政府機関をどうするか。餅の絵を空に描くような議論とはいえず、どうしても着手しておかねばならない議論。参加少数ながら、踏み込んだ討論。△七月五日、神奈川県警へ申し入れ。去る五月、川崎のカトリック教会に、日曜午後の集会中に警察が入ってきて、オーバーステイのフィリピン人を逮捕して行った事件。憲法にも警察官職務執行法

のやりとりですね。ここで神は、「あなたのきょうだいはどこにいるのか」と、厳しい糾弾の言葉を向けているんですね。私が、愛する相手として与えたあなたにきょうだいに對して、あなたは何をされたのか……。これは歴史上繰り返されたのか……。強い者、奪う者たちに向けられてきた問いかけだと思っんですよ。これに對して、カインはこう答えていますね。

「知りません。わたしはきょうだいの番人でしょうか。」

ここで使われている「番人」という言葉は、「守る、見守る」（シャーマル）から来ていますね。神がアダムをエデンに住まにも違反する行為と抗議。異警も非を認めて謝罪。外国人相手ならいつでも職務質問してもいいという空気があるのではないか、責任をもって再発防止に取り組んでほしいと要望。

△七月九日、たまたま改定入管法施行当日。一番しわ寄せを受ける非正規滞在者に、幅広い在留特別許可を認めてほしいという一万人余りの署名を持って法務省へ。与党議員の紹介があつて、法務副大臣に会うことができ、入管局審判課長も同席。署名を省のトップクラスに提出するといのは初めて。結果は樂觀できないながら、ここまで来れたことは感謝。

○二十五年歩み来たりてここにをり法務副大臣に願ひ告げむと（渡辺英俊）

△七月五日、神奈川県警へ申し入れ。去る五月、川崎のカトリック教会に、日曜午後の集会中に警察が入ってきて、オーバーステイのフィリピン人を逮捕して行った事件。憲法にも警察官職務執行法

のやりとりですね。ここで神は、「あなたのきょうだいはどこにいるのか」と、厳しい糾弾の言葉を向けているんですね。私が、愛する相手として与えたあなたにきょうだいに對して、あなたは何をされたのか……。これは歴史上繰り返されたのか……。強い者、奪う者たちに向けられてきた問いかけだと思っんですよ。これに對して、カインはこう答えていますね。

「知りません。わたしはきょうだいの番人でしょうか。」

ここで使われている「番人」という言葉は、「守る、見守る」（シャーマル）から来ていますね。神がアダムをエデンに住まにも違反する行為と抗議。異警も非を認めて謝罪。外国人相手ならいつでも職務質問してもいいという空気があるのではないか、責任をもって再発防止に取り組んでほしいと要望。

さて、そこを「耕し、守る」ようにされた（創世記二章一五節）という時の「守る」と同じ字なんです。カインはここでいみじくも、人間同士がどうあるべきかを逆に言い当てている……。人間は互いに守り合い助け合うために「きょうだい」といつしよに置かれていて……。強い者と弱い者の違いがあつたら、強い者は弱い者を守り助けることによつて互いに生かされるんだということなんです。カインはそれを承知で、「オレの知ったことか」と答えているんですね。この言葉は、現代の若者たちがよく使う「カンケーねえよ。」というセリフと、限りなく似ているんじゃないでしょうか。ほんとは、加害と被害の関係で深くつながっているのに、責任から逃げるセリフですね。そしてそれは、権力の座にある人びとが事あるごとに使う、「私は知らない。私の責任じゃない」というセリフとまったく同じなんです。

助け合う世界を創世記の物語では、この後、カインは土地を追われて放浪者になり、七倍の復讐の威嚇で身を守らなければなりません。それから五代あとの子孫レメクになると、復讐が七十七倍（ほとんど先制攻撃）になったといいま

す。強い者が弱い者を支配し奪う文明は、エスカレートしてそこまで行ってしまうと警告しているんですね。

人間には、個人同士であれ集団同士であれ、置かれた環境条件などもあるものの違いによつて力の差が生まれる……。これは自然なんです。でも、そういう違いから、強い者が弱い者を踏みにじる世界に変えてしまふのは人間の誤った選択で……。今、わたしたちは、そういう文明の破局に直面して、もう一度、「あなたのきょうだいはどこにいるのか」という神の問いに直面していると思っんです。それに対して、「はい、わたしたちがしっかりと見守っています。」と答えられる社会にしたいですね。

支援献金（五月分）

支援献金（六月分）

感謝してご報告します。

助け合う世界を創世記の物語では、この後、カインは土地を追われて放浪者になり、七倍の復讐の威嚇で身を守らなければなりません。それから五代あとの子孫レメクになると、復讐が七十七倍（ほとんど先制攻撃）になったといいま

す。強い者が弱い者を支配し奪う文明は、エスカレートしてそこまで行ってしまうと警告しているんですね。

人間には、個人同士であれ集団同士であれ、置かれた環境条件などもあるものの違いによつて力の差が生まれる……。これは自然なんです。でも、そういう違いから、強い者が弱い者を踏みにじる世界に変えてしまふのは人間の誤った選択で……。今、わたしたちは、そういう文明の破局に直面して、もう一度、「あなたのきょうだいはどこにいるのか」という神の問いに直面していると思っんです。それに対して、「はい、わたしたちがしっかりと見守っています。」と答えられる社会にしたいですね。

支援献金（五月分）

支援献金（六月分）